かしＥ＋Ｐ併用投与はＥ単独投与に比べ骨形成能の亢進が推察された.

11）早発閉経・Turner 症候群婦人におけるホルモン補充療法の骨代謝・脂質代謝への影響の検討

倉林　工・山本　泰明
八幡　哲郎・東條　義弥（新潟大学産科婦人科）
本多　晃・田中　憲一

当科の『いきいき外来』で６カ月以上ホルモン補充療法（HRT）（Kaufmann 療法）中の20～40歳の早発閉経（POF）婦人16例，Turner 症候群（TS）婦人10例，対照群41例について，HRT が骨代謝・脂質代謝に及ぼす影響について検討した.

POF や TS では治療の有無にかかわらず対照群に比べて有意な低骨密度を示すが，HRT 開始後徐々に増加し18カ月以降各々２％，3.8％の有意な増加を認めた. POF や TS では対照群に比べ総コレステロール，LDL コレステロール，HDL コレステロールの高値を示し，長期的な HRT により HDL コレステロールの上昇，LDL コレステロールと動脈硬化指数の低下を示した. 末梢血リンパ球サブセットは，POF や TS とも無治療群は CD3，CD4 および CD4/CD8 比の低値を示し，治療によりやや改善傾向を示した.

POF，TS 婦人は，骨量減少症・高脂血症のハイリスク群である. HRT はこれらの婦人の骨代謝・脂質代謝の改善に有用である. ２～３年以上の長期的な効果については今後の検討を要する.

12）当院に於ける骨粗鬆症治療の現状
—平成４年９月から５年３月までの患者調査より—

所澤　徹（木戸病院整形外科）

平成４年９月から５年３月までに骨密度検査を行った患者全員を対象にして調査を行った. 対象患者数は 234 例で，うち正常者96名，骨粗鬆症患者 138 例であった. 女性患者を中心に年齢順骨密度曲線を作成した. 正常群と骨粗鬆症群では約15％の骨量の差を認めた.

また，骨粗鬆症群はコンピュータデータとの比較では正常値よりやや低い値を示した.

骨粗鬆症治療群ではホルモン療法とビタミンＤ使用群ではホルモン療法の成績が優秀でかつ結果も安定していた. ビタミンＤ使用群では結果が安定していなかった. しかし，アルファロール，ロカルトロール交互投与群ではホルモン療法に匹敵する結果が得られていた.

Ⅱ. 特 別 講 演

「骨粗鬆症の病態と治療」
—エストロゲン・プロゲステロンの治療効果を中心として—

神戸大学第三内科助教授
深 瀬 正 晃 先生